平成 30 年 10 月9日

●鎌倉市本庁舎等整備市民対話（第３回）を開催しました。

鎌倉市では、平成30年（2018年）度末までを目標に、新たな本庁舎の基本構想の策定に向けた取組を進めています。

０．実施概要

市民目線や市民感覚を取り入れた「本庁舎等整備基本構想」の策定を目指し、取組状況を市民の皆さまに広く共有するとともに、新たな本庁舎のあり方・理念について多様な意見を伺うことを目的として、次のとおり市民対話（第３回）を開催しました。

１．開催概要

市民対話（第３回）は、「本庁舎のありたい姿」を描いた前回の対話（８月４日に実施）の結果をもとに、「ありたい姿の実現のために本庁舎に導入したい機能」について話し合っていただきました。

日時　平成30年９月８日（土）午後２時～４時

会場　鎌倉市役所　第３分庁舎　１階 講堂

出席者　市民対話メンバー12名

傍聴者３名

鎌倉市（行政経営部（齋藤、服部）、公的不動産活用課（関沢、下澤、石塚、江川））

都市環境研究所等（大野、谷口、兼森、西村、荻原*、筧*）

*ファシリテータを務める。

プログラム
（１）対話の目的や進め方を共有する
（２）本庁舎等整備に関する情報の共有（深沢地域整備事業用地の概要や市政ｅ-モニターアンケートの集計速報など）
（３）本庁舎に導入したい機能についての対話
（４）一人一人の本日の気づき

２．対話等の概要

（１）対話の目的や進め方を共有する

・　ファシリテータから、本日の対話の目的と進め方について説明しました。

（２）情報共有：本庁舎等整備に関連する情報の共有

・　鎌倉市から、深沢地域整備事業用地の「想定し得る最大規模の降雨による浸水想定」を含めた概要や「市役所本庁舎等整備の取組について」に関する市政 e-モニターアンケート集計速報などについて説明しました。
・　参加者から「浸水想定」に関し、これからも正確な情報を伝えてほしいとの意見が示されました。

（３）本庁舎に導入したい機能についての対話

・ 前回の対話で示された「本庁舎のありたい姿」（Ａ：ネットワーク型ミニマム・コンパクトな本庁舎、Ｂ：稼げる次世代の本庁舎、Ｃ：強くて壊れない防災時でも頼れる本庁舎、Ｄ：簡素化・効率化・ミニマム本庁舎）をもとに、本庁舎に導入したい機能について対話をしました。

会場の様子（内側の対話を外側のメンバーが傾聴）

会場の様子（内側の対話）

・ 「フィッシュボウル*」という対話の進め方により、本庁舎に導入したい機能を具体化していきました。対話で語られた主な機能は次のとおりです。（対話後、重要と思う意見に１人５票まで投票しました。下線は得票があった意見、後ろの数字は得票数を示しています。）

*フィッシュボウルとは、内側と外側の二つの円を椅子でつくり、内側に座る人の対話を外側の人が眺める手法です。内側と外側の人が適宜入れ替わりながら良い対話を深めつつ、その内容を参加者全員で共有します。内側の対話を外側から眺めるという意味で、フィッシュボウル（金魚鉢）と呼ばれています。立場の異なる参加者がお互いの観点を理解し、傾聴することができます。

Ａ．ネットワーク型ミニマム・コンパクトな本庁舎　・・・　〔計９票〕

・ 先行事例があるはず（例：アメリカ・エストニアの都市）　〔１票〕
・ 機能を分散化。鎌倉にも深沢にもある　〔１票〕
・ 機能の分散化は災害時も有効　〔５票〕
・ 防災時、鎌倉は観光客の受入れ、深沢は司令拠点　〔２票〕
・ 腰越にも拠点

Ｂ．稼げる次世代の本庁舎　・・・　〔計７票〕

・ 観光資源になる、人を呼べる本庁舎〔３票〕
・ 例えば、鎌倉の文化・歴史を展示〔１票〕
・ 仕事する・起業する人への開かれた場としての機能（とくに若い世代や IT 系企業を呼ぶ）　〔２票〕
・ 例えば、テレワーク拠点
・ いい椅子と机を備えた図書館機能　〔１票〕

C．強くて壊れない、防災時も頼れる本庁舎　・・・　〔計 18 票〕

- 前回から今回の対話の間にも地震と台風が襲った。都市機能が麻痺する事例が多発している
- そもそも、都市機能の設計が大事。災害は鎌倉市単独で起きるわけではなく、他市との連携が大事。市庁舎だけでは解決できない
- 電源維持（自家発電を含む）は必須　〔５票〕
- 携帯の充電サービス
- 普段はあまり使われてない余白が、緊急時のスペースになることも大切　〔３票〕
- いざというときは、アナログでの情報連絡（例：拡声器）も役に立つ　〔１票〕
- 災害時は海側からの支援が有効。川も使える
- 現場の一次情報把握と市民への伝達・共有機能が大事　〔４票〕
- 外は堅固、中のレイアウトは柔軟　〔５票〕
- 嵩上げして建てることへの不安

D．簡素化・効率化・ミニマム本庁舎　・・・　〔計５票〕

- AI や RPA で市の業務の効率化。LINE との提携もその方向では。
- 市職員の在宅勤務も普通になる　〔２票〕
- アナログにしか対応できない人もいるから、対面で話せる機能はとても大事〔１票〕
- ＩＴの活用とアナログとは、バランスが大事〔１票〕
- そうすると、立派な建物も無駄になりかねない
- 今は、無駄な空間も多い。例えば、議場の使用率はとても低い　〔１票〕
- 快適だが誘惑は少ない場所

共通又はその他：

世の中は変わり続け、本庁舎に求めるものも変わり続ける

- 30～50 年後は予測できない。人口も減少するし、キャッシュレス化も進む〔１票〕
- 未来の「市庁舎」の姿や機能は現在と全然違うはず　〔３票〕
- エストニアの役所は建物は古いが、完全 IT 化され人は非常に少なく、スペースはさほどいらなくなっている
- 「次世代」の 10 代の多くは、（鎌倉を好きでも）数年経つと鎌倉を離れる
- 市庁舎は若者が集まる場所ではない

鎌倉らしさを残し、生かす

- 地理的特殊性：山と海に囲まれ入りづらい地形を生かす
- 自然が近い
- 人同士、挨拶する、関係性が近い　〔３票〕

「温かさ」は求められ続ける

- 世の中が技術で変わり続ける一方、ついていくのも大変。これらを（特に）高齢者に丁寧に教える機能は大切　〔３票〕

対話について

- 市民対話の回数、人数とも不十分ではないか
- こうした対話の機会自体は非常に大切 〔１票〕
- だからこそ、市民ができることはどこまでかを考える 〔２票〕

対話で出た本庁舎に導入したい機能など

- 対話をした後、１人５枚のシールを持ち、対話の内容が記録された模造紙を見ながら、重要であると思う意見に投票しました。
  - 投じられた５５票（投票されなかった方１名）のうち、３分の１が「D．強くて壊れない、防災時も頼れる本庁舎」関連の意見に集まりました。市民の皆さんの防災への関心の高さが改めて確認されました。
  - これまでの４つ（A～D）の方向性に加えて、「時代の変化に合わせ、本庁舎の姿と機能も変わる」「鎌倉らしさを生かす」「人と人が対面で接する温かさ」という意見などの新たな視点にも投票が集まっていました。
- 投票後に行った投票結果を見ながらの対話では、次の意見が示されました。
  - ここに書かれた機能の全てを一箇所で実現する必要はない。例えば、「強くて壊れない、防災時も頼れる本庁舎」は深沢の新しい庁舎に期待したいが、「稼げる次世代」の機能は、今の本庁舎の跡地で実現した方が良い。
  - 複数のアイデアを組み合わせることで、理想的な機能がつくれそう。例えば、「使用率の低い議場」が、いざというときに机の下から「携帯充電 1000 ポート（自家発電あり）」が出てくる避難所になれば、使用頻度が低いことも強みになる。

会場の様子（投票の様子）

サークル*：一人一人の本日の気づき（感想含む）

会場の様子（最後は一人一人が振り返り）

・ 「鎌倉らしい市庁舎」は無人ではない。IT による効率化と人の温かみの組合せが良い。
・ いろいろな気づきがあった。あってほしい市庁舎の姿が、議論するにつれて段々とイメージできてきた。
・ 対話をすることで、他の人の考えがわかってよかった。
・ 市庁舎はできるだけ機能的なものにしてほしい。
・ 意見がだんだん共有化されてきてよい。分散化は、コストが増えるという側面もある。
・ 世代・性別を越えたこのような対話はとてもよい。
・ 今までなかった視点が得られた。
・ 台風・地震がまた来て、防災性に関しては追いつけない感じ。他の市民が感じていることをアンケートで確認できてよかった。
・ 本庁舎は鎌倉らしいよい場になってほしい。
・ このメンバーだけでなく、もっと大勢と対話して決めてほしい。深沢前提は考えづらい。浸水は起きてしまったらどうしようもないので、考えてほしい。
・ 対話の結果がどう使われるか分からないのでしっくりこない。分散化については、深沢・鎌倉だけでなく、大船・玉縄も考えないとダメだと思う。

*サークルとは、参加者が車座になり、全体で考え対話の場をつくり出す方法。

３．今後の進め方

これまでの対話を基に、更に多くの市民の皆さまと一緒に本庁舎について考えていくため、市民対話メンバーに加えて公募の参加者による「拡張ワークショップ」を平成30年10月８日（月・祝日）に市民対話（第４回）として開催しました。次回は、最終回として市民対話（第５回）の開催を予定しています。